

# NEWS RELEASE



市政記者各位

2025年12月12日  
福岡市博物館

## 特別展「魔法の歴史スコープ」を開催します

是非ご取材いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

### 歴史を通して、福岡の今と未来を考えます

この展覧会では、博物館の所蔵資料や市内の遺跡で発掘された出土品を約250点展示し、歴史を通して福岡の今や未来を考えます。

「今の社会の見え方が変わる」。そんな魔法のような体験を通じ、子どもから大人まで、さまざまな気づきを得られる展覧会です。

### 人と環境との関わりの歴史をたどります

この展覧会では特に、人と「環境」がどのように関わってきたかにスポットをあてます。人は森や川、海などの自然環境との関係を築いた上に、町などの社会環境をつくり、その中でくらしています。そうした私たちの生活と深く結びついている環境と人との関わりの歴史をひととくことで、よりよい未来をつくっていくヒントを探していきます。



↑石斧（弥生時代）

木の伐採や、木製品の加工に用いられた弥生時代の斧。集落や水田を広く開発していく際には大量の森林伐採が行われ、自然環境の変化を招きました。



↑鉄滓（奈良時代）

奈良時代に製鉄をした際に、不純物が固まったクズ。鉄は弥生時代以来、増加する人口を支えるために生活必需品となっており、その生産には大量の森林資源を必要としました。

#### 開催概要 会期：2026年2月21日（土）～4月12日（日）

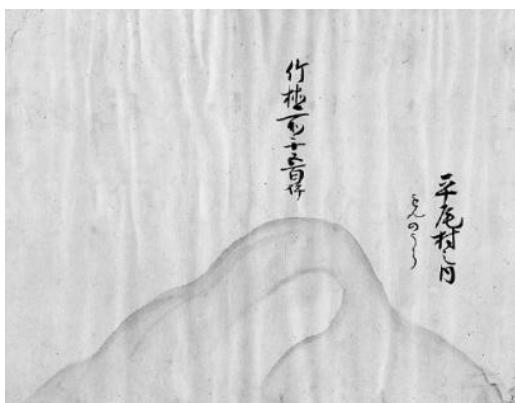
場所：福岡市博物館 特別展示室 時間：9時30分～17時30分（入館は17時まで）

観覧料：一般 800円（600円）、高大生 500円（400円）、中学生以下無料（）内は20人以上の団体料金

# NEWS RELEASE



←正保福博惣図（江戸時代）  
江戸時代前期の福岡の町を描いた絵図。福岡城の城下町は、江戸時代以前には人が住んだ痕跡はありません。川の付け替えや海岸の埋め立てにより、広大な町ができ、今の福岡の町につながっていきます。



←竹山之図（江戸時代）  
江戸時代の山林調査の記録として描かれた山々の絵図。森林資源の利用が拡大し、江戸時代には福岡でもはげ山が増えていきます。近代までに、福岡市域で原生の植生を保つ場所はほとんどない状況となりました。



↑福岡市上水之栄（大正時代）  
福岡市が上水道の供給を開始した際に配られた冊子。福岡に上水道の供給が始まったのは 1923 年で、その第一の目的は都市衛生の改善でした。

## 歴史資源の多様な価値を掘り起こす共創展示

展覧会の序章は、「2000 年後から見た現代社会」をテーマに活動する現代美術家の柴川敏之氏の作品で構成します。遠い未来に発掘された今私たちのくらしを表現するインスタレーションを通して、「今」もまた歴史の一部であるということを伝えます。

また、展示の最終章として、江戸時代の資料に描かれた花をモチーフとした空間演出や、考古資料からインスピレーションを得たファッショントリビュートを展示します。これらは、歴史資源の多様な価値を発揮させたいという博物館の思いにこたえて、市内の専門学校や短期大学の学生が制作したもので、（協力：専門学校 福岡ビジネス・アカデミー/西日本短期大学/香蘭女子短期大学）。



▲柴川敏之氏



▲2000 年後に発掘された招き猫の出土品



▲作品制作にむけた資料見学のようす

■お問い合わせ先 福岡市博物館 学芸課…杉山・朝岡 TEL 092-845-5011 FAX 092-845-5019



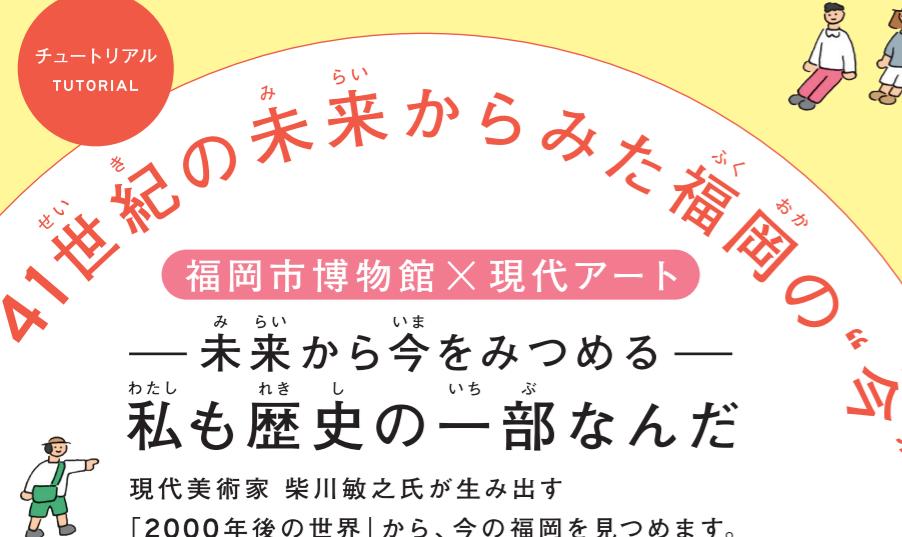
# 今だからこそ見つめなおす 人と環境の関わりの歴史

歴史をひもとくことは、私たちの今の暮らしのあり方をより深く理解することにもつながります。私たちの生活は過去と切り離されたものではなく、また、この先の未来にもつながっているのです。社会の変化が大きく、先が予測できない今だからこそ、改めて過去を見つめ、歩んでいくことが必要なのではないでしょうか。

この展覧会では特に、人と「環境」がどのように関わってきたかにスポットをあてます。私たちの生活にとって、自然は身近ではなくなってきているようにも感じますが、私たちは自然に頼らずに生きていくことはできません。人は森や川、海などの自然環境との関係を築いた上に、町などの社会環境をつくり、その中でくらしているのです。そうした私たちの生活と深く結びついている環境と人との関わりの歴史をひもとくことで、よりよい未来を作っていくヒントを探していきましょう。

「今の社会の見え方が変わる」。

そんな魔法のような体験を、あなたもぜひ会場で味わってみてください。子どもから大人まで、さまざまな気づきをえられる展覧会です。



柴川敏之 SHIBAKAWA Toshiyuki

現代美術家。1966年大阪府生まれ。広島大学大学院修了。現在、岡山市在住、就実大学教授。イタリアのポンペイ遺跡など、突如消失した文化の痕跡に触発され、「2000年後から見た現代社会」をテーマに、身近なモノを絵画技法によって“出土品(化石)”のように変換した作品を制作している。

<https://www.toshiyuki-shibakawa.com>

